

令和7年度佐賀大学一般選抜 個別学力試験

科目：化学（理工学部：前期）

1. 出題意図

問題 1

「化学」の範囲から出題した。溶解度に関する語句、また濃度計算に関する基礎的な問題であった。(1)、(2)では基本的な語句の問題を出題した。(3)においては、溶解度を基本にした化学において必須である濃度や物質質量に関する問題を出題した。また、(3)(d)において、沸点上昇と物質質量の関係を正しく理解しているかを問う問題を出題した。

問題 2

「化学」の範囲から出題した。問題2では無機物質に関する基礎的な事項が習得されているかを試問した。特に、典型元素のハロゲンを対象とし、その単体や化合物の特徴的な性質を総合的に理解しているかを問うた。

問題 3

「化学基礎」「化学」の範囲から出題した。化学反応と電気エネルギーについて、特に電気分解を取りあげて、各電極で起こる酸化反応と還元反応についての基礎的な知識を問うた。また、電気量と生成物質質量の計算により、電気エネルギーと化学反応における総合的な理解度を問うた。

問題 4

「化学基礎」「化学」の範囲から出題した。有機化合物の基礎的な知識として、有機化合物の基本的な性質と有機化合物の構造に関する知識が修得されているかを試問した。また、天然高分子有機化合物のデンプンの加水分解反応について理解しているかを問うた。

2. 問題訂正

補足箇所	2 ページ	1
誤	ある温度で一定量の溶媒に溶質を溶かしていくと、溶質がある量以上になると溶けなくなる。この限度の量を溶解度といい、溶解度まで溶質を溶かした溶液を <u>飽和水溶液</u> という。	
正	ある温度で一定量の溶媒に溶質を溶かしていくと、溶質がある量以上になると溶けなくなる。この限度の量を溶解度といい、溶解度まで溶質を溶かした溶液を <u>飽和溶液</u> という。	